

松江・カラコロ工房来訪者

女性のお目当て ピンクのポスト

松江のまちづくりを研究している県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の学生が18日、松江市殿町のカラコロ工房の来訪者に対してアンケート調査をした。調査はNPO松江ツリー（ズム研究会の依頼を受け実施。10月4、5の両日、学生27人が、訪れた273人）を対象にアンケートした。結果をまとめ、授業で報告した。20～30代の女性が4割を超え、県外の来訪者は20～30代が45・8%を占めた。工房内にある「ピンクのポスト」を目当てに訪

4割超が 県立大生が調査

アンケート結果を報告する学生たち



れたのは、松江市在住者では2%だったのに対し、県

外在住者は17・8%以上だった。松江のイメージを聞いた設問では、隣接する出雲市の「出雲大社」を挙げる意見が多く、学生たちは「松江市内にある観光スポットの情報発信にもっと力を入れるべきだ」と提案した。報告を受けた同研究会の山下武之企画事業部長（69）は「ピンクのポストが予想以上に県外客に知られている実態を把握できた。今後の観光振興に生かしたい」と話した。



3期目の大学運営方針を説明する本田雄一理事長

「学外から理事招く」
3期目の方針説明

県立大・本田理事長

県立大（浜田市野原町）の本田雄一理事長はこのほどあった定例会見で、再任が決まった3期目（2015年4月～17年3月末）の運営方針を説明した。「島根県立大学憲章」に沿った従来の方向性を踏襲

しつつ、社会情勢やニーズの変化に対応するため、学外から理事を招くなどの改革に取り組む方針を示した。本田理事長は、法人の意思決定機関の理事会について「学外の意向をより、直接的に反映できるようにし

たい」と説明。専任の副理事長と3キャンパスの副理事長を合わせた5人の理事で構成している現状に、学外の非常勤理事を1人加える考えを示した。定款で理事は「6人以内」としており、変更は不要という。

また、浜田キャンパスについては、県立大学支援協議会から「地域政策学部」増設を要望されたのを契機と捉え、将来を見据えた大学の在り方の検討を15年度から本格化させる意向を表明。松江キャンパス短期大学の4年制化構想は、あらためて実現への思いを強調した。

平成 26 年 12 月 23 日付け・山陰中央新報

島根県立大
高3の8割 4年制化賛成
3割「第1志望なり得る」

島根県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の4年制化を検討している同県が、県内の高校3年生や保護者、地元企業を対象に行ったアンケート結果をまとめ、24日にあった同大学の在り方を検討する有識者懇談会で示した。高校生の約8割、保護者と企業の約7割が4年制化に「賛成」と回答。4年制した場合、第1志望になる可能性があるとしたのは高校生は約3割、保護者は約5割を占めた。

アンケートは9月、県が県内全45高校と、栄養士や保育士を採用する県内企業や介護事業所、保育施設に送付。学校側が抽出した3年生1777人と保護者882人、781の企業・事業所などから回答を得た。

4年制化に「賛成」と「どちらかといえば賛成」と答えたのは高校生で80.5%、保護者74.2%。企業も70.7%に上った。

「短大のまま第1志望候補になり得る」と答えた高校生が20.9%だったのに対し、「4年制化すれば候補になり得る」とした高校生は33.0%と10%以上増えた。保護者は52.8%が4年制化で第1志望にな

る可能性があるとした。

一方、大学進学を望む高校生、保護者の約7割が希望地を「県外」と回答しており、この日の有識者懇談会では「地元を卒業し、地元で就職する学生の支援策を考えてほしい」とする意見があった。

有識者懇談会（座長・古瀬誠 県商工会議所連合会会長、20人）では、アンケート結果などを踏まえ、来年3月に4年制化の是非を含めた報告書をまとめる。

「短大のまま第1志望候補になり得る」と答えた高校生が20.9%だったのに対し、「4年制化すれば候補になり得る」とした高校生は33.0%と10%以上増えた。保護者は52.8%が4年制化で第1志望にな

平成 26 年 12 月 25 日付け・山陰中央新報